

議事要旨(1) EFRAGの開示フレームワーク意見募集へのコメント対応について

冒頭、加藤副委員長より、EFRAGのディスカッション・ペーパー「開示フレームワーク」に対するコメント案の最終化へ向けた審議を行いたい旨の説明がなされ、紙谷シニア・プロジェクト・マネージャーより、説明資料〔審議事項(1)-1〕及び〔審議事項(1)-2〕に基づき、詳細な説明がなされた。

説明に対する委員からの主な発言と、それらに対する事務局からのコメントは次のとおりである。

- ある委員より、次のようなコメントがあった。
 - 注記情報の開示についてチェックリスト的な対応から脱却して、財務情報利用者にとって有用な、目的適合性のある注記情報のみを開示する方向で取り組むことに賛成である。EFRAGは、EUにおけるIFRSのエンドースメント手続きの中で技術的なアドバイスを行うことを主たる目的としており、最近ではIASBの基準開発におけるプロアクティブな活動を強化していると聞いているが、EFRAGとしてはディスカッション・ペーパーへ寄せられるコメントを受けて、今後どのような取り組みを考えているのか。
これに対して、事務局より、EFRAGが寄せられるコメントを今後どのように活用するかについて当委員会では明確に把握していないが、ディスカッション・ペーパーへ寄せられるコメントはIASBが開示フレームワークを作る中で様々な形で利用されるのではないかと考えられる旨の回答がなされた。
- ある委員より、次のようなコメントがあった。
 - EFRAGやFASBが開示フレームワークに関するディスカッション・ペーパーを作成して開示フレームワークについて検討していることを受けて、日本では我が国の開示フレームワークの開発に向けてどのように検討を進める予定か。
これに対して、事務局より、現時点では我が国の開示フレームワークの開発に関して具体的な予定はないものの、当委員会では当面IASB等の動向を見守りつつ、具体的な対応については将来的に検討したい旨の回答がなされた。

最後に、加藤副委員長より、今日の議論を踏まえてEFRAGのディスカッション・ペーパーへのコメント案を最終化してEFRAGへ提出したい旨のコメントがなされた。

以上